

社外取締役メッセージ

川崎重工グループでは、当社とは異なる分野における豊富な経験と専門的知見を基に、業務執行から独立した客観的立場より適切な意見・助言をいただける方を候補者として、社外取締役を選任しています。

社外取締役は、取締役会において独立した立場から当社グループの業務執行に対して意見・助言を述べることで、その監督機能の強化に努めています。また、報酬諮問委員会、指名諮問委員会において議長を務めるなど、積極的な関与と助言を行っています。さまざまなバックグラウンドを持つ社外取締役の意見を経営に取り入れることで、コーポレート・ガバナンスを一層強化していきます。

資本市場や投資家の視点から積極的に発言し、企業価値の向上に貢献していきます。

川崎重工は高い技術力を背景に事業を展開してきた伝統ある企業ですが、時代の変化が加速する中、これまで以上にスピード感をもった経営判断が求められるようになってきました。こうした中で、当社においては変化にいち早く対応できる組織づくりや企業風土改革を進めるとともに、ロボットや水素関連などの新分野への取り組みを進めています。取締役会での議論は非常に活発になされており、ガバナンスのあり方についての検討も進んでいます。私は、当社と同様に長い歴史を有する証券取引所で、大きな変革の時期の経営に携わり、事業環境変化への素早い対応がいかに不可欠か、また、変化に対応できない組織は衰退していくということを実感しましたが、当社のこうした取り組みは、時代の変化への対応という点で評価できると思います。

一方、課題は、各分野が有する高い技術力を結集してシナジーを生み出すなどの「全体最適を見極める力」の強化と、「稼ぐ力」を高めるための体制や意識の改革だと考えます。こうした課題は、企業の鏡である株価にも反映されています。今回の中期経営計画は、取締役会で相当な時間を費やし議論を進め、それらの課題への手当てを重点的に盛り込むことができたと思います。収益を上げ、技術を創造する、この循環のバランスをとることができれば、当社は、コングロマリットのメリットを真に発揮する成長企業として発展を遂げていくと信じています。私も、これまでの金融界での経験を基に、製造業の常識にとらわれず、組織改革や新たな事業展開に関し、資本市場や投資家の視点から積極的に発言し、当社の企業価値向上に貢献できるよう努めていきます。



社外取締役

米田 道生

住友化学株式会社 監査役
朝日放送グループホールディングス
株式会社 取締役(監査等委員)

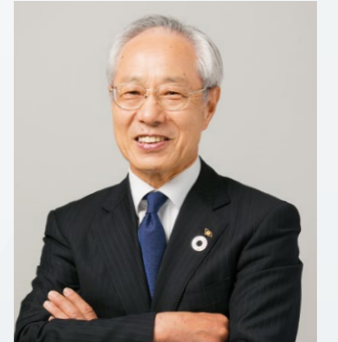
「企業の持つDNA」を羅針盤として イノベーションによる社会変革の実現を。

令和元年、拡大してきた資本主義、グローバリズムが転換を迫られている中で、サステナビリティを意識した製品や製造プロセスの確立、製品売り切り型からサービスや運用まで包括するビジネスへの拡大、さまざまな情報の統合によるバリューチェーンのシステム化など、ものづくりのあり方も大きく変わろうとしています。先の見えにくい時代の中で企業が成長を遂げていくためには、社会ニーズを捉え、豊かな発想で、非連続イノベーションといわれるような劇的な変革を導き出すことが求められているといえるでしょう。

このような時こそ、企業はその存在意義を深掘し、「企業の持つDNA」を重要な羅針盤にして進むべきと考えます。川崎重工は、今、磨き上げてきた先端技術をもって新たな価値を創造し、社会の発展に貢献するという理念を掲げ、「カワる、サキへ。」を実践して、新たな時代の責任ある企業として、さらに発展していこうとしています。川崎重工のDNAとは何か。時代の先を見て、これまでのDNAの中で何を堅持し、何を変え、どのように立ち向かうのか。熟考を通じて、時代の変化に対してDNAに根差した生き様を描き、それに共感する人々と一体になって、社会変革を目指してほしいと思います。

VUCA*が叫ばれる世の中とはいえ、歴史は連続しており、何らかの必然性がそこにはあります。私は、ガラス産業において40年以上ものづくりと技術開発に携わった経験から、その必然性を感性豊かにセンシングして、劇的な変革の鍵となる「違い」をつくり、勝てるシナリオを描き切って決断すれば、必ず結果はついてくると考えます。今後も、当社のDNAと未来を見据えて、企業変革に向けた果敢な意思決定を支えていきます。

* VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (不透明性)



社外取締役

田村 良明

DIC株式会社 取締役

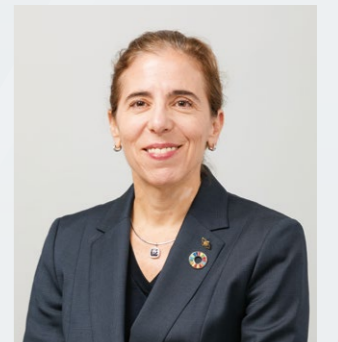
グローバルに事業を展開する コングロマリットのリスクマネジメントに注目しています。

Kawasakiといえば米国では二輪車で有名であり、私にとっても以前はその印象が強かったのですが、川崎重工の社外取締役に就任し1年が経った現在では、その事業分野の多様性とグローバルなプレゼンスへの認識が深まりました。

私はキャリアのほとんどを国際的な金融法務分野の弁護士として活動してきましたので、ビジネスをグローバルに展開することの企業利益も、それによりもたらされる複雑さやさまざまなリスク特性も理解しています。川崎重工は多くの国々で事業を展開しているため、国レベルでもグローバルレベルでも多様なリスクにさらされていますが、情報交換のスピードが加速し、利用可能な情報量が増大するにつれ、グローバルな成長およびリスクのモニタリングはより効率的に行えるようになってきました。

コングロマリットである川崎重工のコーポレート・ガバナンス体制は、すべてのステークホルダーにとってベストとなるリターンを生み出すべく、リスクの影響度を評価しバランスを取りつつ、さまざまな国において展開される6つの異なる事業それぞれを運営し、成長させていかなければなりません。法制度が高度に複雑化し、競争が激化するグローバルマーケットにおいては、将来直面する可能性のある課題を一元的に予測し、監視する体制が整っていることが不可欠だといえるでしょう。

川崎重工のマネジメントは、一元的かつ効率的なリスク監視体制の整備、競争力を高めかつコストを下げる事業間シナジーの特定、グローバルコンプライアンス体制の構築、および、それぞれの事業がそれぞれの分野で成長することを妨げずにリスク管理を一元的に行うために最適なビジネスモデルの再検討などに力を入れていますが、これらはいずれもリスク管理の観点から適切であると考えています。



社外取締役

ジェニファー ロジャーズ

アシュリオンジャパン・ホールディングス
合同会社 ゼネラル・カウンセラー アジア
三井物産株式会社 取締役
日産自動車株式会社 取締役